

神様に殺されて転生し  
たら

孤独な月

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

神様に殺された心に傷を持った者がいく!!

ハイスクールD×D!!!

あらすじを少し修正しました

# 目次

主人公紹介	1
転生	7
能力確認からの事件	14



# 主人公紹介

少しのネタバレというか設定があります

主人公

転生前

名前

神崎 空（しんざき そら）

年齢

17歳

学校の帰り道に神様が食べて捨てたバナナの皮に滑り頭を

打ち死んだ哀れな人物

そして過去の事件により人を信じなくなり

自分以外は敵だと思ふ様になっていだが

ある人物により少しは改善したがその人物の

が死んだことにより心に悲しみを持った

転生直後（原作開始前）

ソラ・バジリスタ

性格

男性

年齢

5歳（見た目が）

神様に殺されて転生したが目立たないようにして原作と原作の主人公のハーレムを眺めたいとおもっている（神様は主人公を原作に巻き込こんで眺めたいと思っている）

転生特典

健康な体

色んな事が理解できる頭脳

？

ここからは神様が加えました

BLEACHの黒崎一護と同じ霊圧と斬月と技（破面編までで虚化、卍解は可能）

NARUTOの技全て

巻き込まれ体質

原作に巻き込まれらようになる

ハーレム体質

ハーレムが出来やすくなる

好きな事(物)

原作を眺める事、読書、平穩

好きな言葉

平穩、平和、安全など

主人公の性格

戦闘などの争いごとなどは行いたくない

だが敵対者には容赦はしない

そして人を心から信用などはすることは

無い

だがそれを人に気づかれないようにしている

原作開始

名前

ソラ・バジリスタ

年齢

17歳

性別

男性

身長

156センチ（本人はかなり気にしている）

見た目

白髪の赤目（アルビノ）

好きな事（物）

原作を眺めること、読書、平穩、家族

好きな言葉

前と変わらず

主人公の性格

あまり戦う事はしたくは無いが、

敵対者には容赦はしない相手に殺意などの

負の感情があれば必ず戦う

そして前程では無いが人を信用などする

様になった（家族は心から信用している）

しかし、まだ人に警戒したり観察する癖はある

能力



斬月の卍解

虚化（もって5分それ以上は出来ない）

NARUTOの技

神様

名前

カオス・バジリスタ

性別 男性

主人公を転生させた本人

主人公のことをずっと見ていた

かなり偉い神様

良くダラけている

主人公の過去などを知っている人物でもある

主人公にこの転生でいい人生を歩んで欲しいと

思っている

性格

面白い事が大好きで人の運命などを

いじったりする（そのせいで部下の人達に

怒られている)

そして気にいった相手に少しちよっかいをかけたたりする(そして部下の人達に怒られる)

さらに主人公の事をかなり気にいっている

理由は魂が人より壊れそうでなのに足掻き続ける姿に

興味が出たから

故に自分のファミリィネームを与える

???

主人公を助けた人物

だがある事件により死亡

## 転生

空「zzz」グー

??? 「起きよ」

空「zzz」グーグー

??? 「起きるのじゃ」

空「zzz」グーグーグー

??? 「いい加減に起きよ!!」

空「パチ

??? 「…」

空「…え」

??? 「ようやく起きたかのよう」

空「誰??」(何だこの変な服装のじいさんは?)

??? 「わしの名はカオスじゃ

神をしておる」

空「え、神様??」(頭逝かれてるんかこのじいさん)

カオス「逝かれておらんわ!!!」

空ビク

「え、何で」(このじいさん今、俺の心を読んだ??)

カオス「神じゃからの

そのくらい読めるわい」

空「マジ?」(まじで神様なのかよこんなじいさんが)

カオス「マジじゃ

てか、お主先程からわしの事馬鹿にしすぎじゃないかろう?

まあ良い単刀直入に言うがお主は先程死んだのじゃ」

空「え、俺死んだの!?

何で!?

カオス「落ち着けお主これをやるから

今説明するからもう」つバナナ

空「分かった

説明はよ」もぐもぐ

カオス「今度は落ち着きすぎじやろ…

まあ良いお主が死んだ理由は…」

空「理由は…」もぐもぐ

カオス「それじゃ」バナナに指差し

空「え」

カオス「わしが食べてポイ捨てしたのを

たまたまお主か滑り頭を打ち付けて死んだのじゃよ」

空「え、嘘だろ!？」

え!!俺バナナに滑ってしんだの!？」

てか!!お前のせいか!!!」

カオス「許してにやん」ニヤー（▽）

空ブチ

「殺す!!!」

しばらくお待ちください

空「で、お前のせいだと分かったが

俺はこれからどうするんだ？」

カオス「うむ

その事なんじやがお主を転生させようと思っておる」

空「え、転生？」

カオス「それじゃ

転生じゃ」

空「二次元小説とかのか？」

カオス「そうじゃな

それと行く場所はもう決めておる」

空「何処に転生するんだ？」

カオス「ハイスクールD×Dじゃよ」

空「は!？」

あのパワーインフレ起こしてるところか!？」

カオス「それじゃな

それと安心するのじゃ

転生特典を3つやろう」

空「安心要素ねーし

まあいい3つだろ？何でも良いのか？」

カオス「構わん

好きなものを選ぶと良いのじゃ」

空「じゃ

色んな事が理解できる頭脳と健康な体をくれ

あと1つは親が幸せになるようにしてくれ」

カオス「了解じゃ

しかしそんなので良いのか？

先程お主自身でパワーインフレの世界と言って

おったではないかそれじゃ

また死んでしまうぞ？」

空「いいんだよ

俺は原作に関わる気無いし

むしろ俺は眺めてる方が楽しいしな」

カオス「そうか分かったのじゃ  
あとお主に一つプレゼントじゃ」

空「何だ？」

カオス「名前をやろう

じゃが安心せいファミリーネームを変える

だけじゃ

そうじゃな

ソラ・バジリスタと名付けよう

どうじゃ？それで良いかの？」

ソラ「ああ

いい名前をありがとうな

今日から俺はソラ・バジリスタだ！」

カオス「気に入ってくれて何よりじゃ

そろそろ転生させるぞ」

ソラ「分かったよ」

カオス「それじゃの

元氣での」



ソラ「あんたもな」

カオス「ポチとな」

パカ

ソラ「へ？」ヒュー

カオス「じゃのゝ」(▽)( )

ソラ「この

クソジジイイイイイイイイイイイイイイイイ  
!!!!!!」ヒュー

カオス「行つたかのう

面白い奴じやつたな

そうじゃ!!他にも色々特典をやろう!

さて、なんにしようかのう」ククク

## 能力確認からの事件

オツス！

俺の名はソラて言うんだ！

俺が今何処にいると思う？

正解は…

空の上でした!!!

ソラ「うああああああああああああああああああ」ヒューー

まじであのクソジジイ!!

俺を落としやがった！

今度絶対に殴ってる!!!

ソラ「てか!

どうすればいいんだよーーー!!」ヒューー

ソラ「うああああああああああ

地面にぶつかる!!」

ソラ（あ、死んだ

転生してから数秒で俺死んだ）

ソラ「えっ」ピタ

ソラ「と、止まった?」

ソラは空中で止まり、地面に降りれた

スタ

ソラ「降りれた:

はあゝ

何で、止まったんだ?

てか!あのクソジジイ!!

俺を殺す気か!!!」

ソラが怒っていると空から

手紙が落ちてきた

ソラ「何だこれ？手紙？

まあ読んでみるか」

ソラ「なにになに」つ手紙

ソラが手紙を読むとそこに書かれてたのは、

カオスからの手紙だった

カオス『ちよりくす

元気く（笑）

どうだった空の旅はく（笑）

もしかしてびびった？

びびっちゃった？

そしたら

ザアマ

プギヤー（。▽。）

ソラ「」ブチ

ソラ「うあああああ!!!

殺してやる!!殺してやるぞ!!

ジジイイイイイイイイイイイイ  
!!!!

しばらくお待ちください

ソラ「はあはあはあ

結局なんだったんだこの手紙は」

カオス『まあ

真面目なことを伝えるのじゃ

お主の特典を追加したことを伝えるため  
手紙を書いたのじゃ

で、お主に追加した特典は

BLEACHの黒崎一護の斬月と霊圧と

NARUTOの技全部じゃ

それに虚化も頑張れば出来るぞ

じゃ転生後もがんばるのじゃよ

p s . 見た目や身長を変えといたぞ

まだ原作前だかなのと名前に合う容姿にさといたぞ』

ソラ「特典の追加？

それにBLEACHの黒崎一護の斬月と能力と

NARUTOの技全部で：

そしてまじで身長が低くなってやがるのと

容姿も変わってやがる

はあー

まあいいや、あれ？」

ソラ「なら、斬月は何処だ？

なく無いか？」

ソラが辺りを見渡すがそれらしきものば

無かった

ソラ「うーん

何処だろ？」

その時ソラの右腕が光ったのだった

ソラ「うお」ビク

ソラ「何だこれ!？」

ソラ右腕の光が治ると

そこには斬月が握られていた

ソラ「おーおー

出たな斬月

まじであのクソジジイ

特典を追加したのか

まあいいや

とりあえず特典を使えるように特訓するか」

数ヶ月後

ソラ「うーん

まあ何とか形にはなったかな？

NARUTOの技は何とかなったんだけど

だけどまだ斬月が卍解も出来ないしな

虚化も30秒しか出来ないし

まだまだ特訓しないとな」

ソラが能力の確認をしてると

??? 「きゃーーーーーー」

と悲鳴が聞こえた

ソラ「何だ!?

何処から聞こえた!?!」

ソラは耳を澄ませながら

霊圧を探った

ソラ「こつちか!!

今いくぞ!!!」

そして、ソラはかなりの速度で

向かっていった